

学会参加レポート

## International Academic Research Conference on Marketing, Tourism & Hospitality (ICT20Thailand Conference) 参加報告

徐 嘉楓<sup>1</sup>

2020年2月14-16日の3日間にわたり、タイのバンコクにて開催されたInternational Academic Research Conference on Marketing, Tourism & Hospitality (ICT20Thailand Conference)に参加し、口頭発表をしたため、以下に報告する。

タイは世界的に有名な観光デスティネーションであり、気候が一年中温かくて、ユニークな文化遺産を持っている。タイ政府も、観光事業のマーケティングを重点的に推進している。本学会は、マーケティング、ツーリズムとホスピタリティに関する幅広い分野の研究者が集う国際学会であり、今回は第26回目の開催で参加者は世界10ヶ国以上から30人程度であった。日本国内の学会と異なって、自由な服装で参加されている方が多く、コーヒープレークの時間も多く設けられた。そのため、意見交換がとても行われやすく、全体的にフレンドリーな雰囲気であった。

私の発表のタイトルは、“WOM behavior among sport event participants of different running involvement levels: Analysis of WOM obtaining routes, influence, and behavioral intentions”であった。発表の内容は奈良マラソン2018ランナーを研究対象として、ランニング関与の異なるスポーツイベント参加者のクチコミ行動、クチコミによるイベント参加意思決定への影響力についての分析、および対面クチコミとeクチコミ

の影響力を比較するものであった。今回は英語での発表であり、発表15分間、質疑応答5分間であった。複数の研究者から質問や意見を頂き、本調査対象とする日本のマラソンランナー、1300人以上のサンプル数の収集について、興味を持たれた。

また、eクチコミの内発的・外発的動機付けについてオーストラリアとタイの比較研究をしているオーストラリア某大学の博士と深く交流し、研究の視点や手法について自分の研究にとって有益な情報をいただいた。

自分の発表は暗記した上で流暢に進んだと思うが、他の発表者の魅力的なプレゼンテーションを聞いて、自分の発表技術をもっと磨いていく必要性を痛感した。

このような幅広い分野を扱う学会に参加し、スポーツの領域だけではなく、他分野の研究者との交流を通して、視野を広げることができた。非常に有意義な経験であると感じた。

### 謝辞

今回の学会発表にあたり、大学院生国際学会発表奨励金を支給していただいた同志社大学スポーツ健康科学会に、感謝の意を表します。また、本調査研究を遂行するにあたって、ご指導をいただいた同志社大学の二宮浩彰先生、國學院大學の備前嘉文先生、同研究室博士後期課程の胡威先輩には、心よりお礼申し上げます。



発表完了証の受領



バンコクの景色

1 同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科 (Graduate School of Health and Sports Science, Doshisha University)